

布志名焼

前期2.22~3.20 後期3.22~4.17

前期 後期

| | | | | | | | | | |
|----|------------------------|---------|------------|----------------|-------------|------------------------------|---|--|--|
| 1 | 松平不昧像 | 大正6 | 1917 | 周藤国実コ レクション | 1 | 松平不昧百年忌記念。桑原羊 次郎監修。 | 不昧百年忌に際し制作。桑原は松江の実業家・美術研究・蒐集家。不昧とE.モースの影響を 受け、1910年、11年の日英博覧会美術部門、ローマ万博日本美術館で活躍した。 | | |
| 2 | 金流釉茶入(①大海、 ②飯胴、③水滴) | 明治時代 | 19~ 20C | 山口家資料 | 3 | 土屋善六「御詠物図」七種の 茶入の内3点 | 土屋善六の「御詠物図」にみえる茶入7種の内3種。不昧は、美術品の蒐集のみならず、意 匠を発注し制作させて、布志名焼の技倆と美的水準を高めていった。 | | |
| 3 | 安南写兎文茶碗 | 幕末~明治時代 | 19C | 個人蔵 | 1 | | 土屋善六の「御詠物図」にみえる安南(現ベトナム)の陶器を模した茶碗。不昧は、好みの意 匠を発注・制作させて、布志名焼の技倆と美的水準を高めていった。 | | |
| 4 | 七福神図皿 | 幕末~明治時代 | 19C | 周藤国実コ レクション | 1 | 「雲永」印 | 「雲永」印は永原繁2代与蔵、3代永助が用いた。近代には絵師が画工をつとめるなど、多 様な注文に応じられるよう分業生産が図られていった。 | | |
| 5 | 秋草図入子鉢 | 明治時代 | 19C | 周藤国実コ レクション | 2 | 「雲永」印 | 「雲永」印は永原繁2代与蔵、3代永助が用いた。近代には絵師が画工をつとめるなど、多 様な注文に応じられるよう分業生産が図られていった。 | | |
| 6 | 楓散し文蓋碗 | 明治時代 | 20C | 個人蔵 | 1 | | | | |
| 7 | 緑釉流千筋徳利 | 明治~大正時代 | 19~ 20C | 個人蔵 | 2 | 「合名会社」印 | 側面に、いくつもの筋を彫りつけた徳利。櫛搔きで筋を乱さず仕上げているところに、手慣 れた職人技が見てとれる。 | | |
| 8 | 緑釉流夕顔図急須 | 明治時代 | 20C | 周藤国実コ レクション | 1 | 「大日本」「出雲若山」印、 「玄常齋法印(花押)」 | 番茶用の急須(土瓶)。ふっくらとした形、大らかな色合いが好まれた。陶器への絵付け は、当時の日本画家の副収入源となっていた。 | | |
| 9 | 銘々皿 | 江戸~明治時代 | 19C | 個人蔵 | 6客の内 4客 | | 「銘々皿」とは、料理や菓子を一人一人銘々に取り分ける皿。土器の縁3ヶ所をつまみ、黄 釉をかけただけのシンプルな作品だが、渋い雅味がある。 | | |
| 10 | 葵紋角小皿 | 明治時代 | 19C | 山口家資料 | 12客の 内4客 | | 木型などを用いて造形し、黄釉の地に緑釉を流し掛け、二葉葵の文様を添える。山口家は松 江藩において家老に次ぐ中老格で、近代には家扶として松平家に仕えた。 | | |
| 11 | 緑釉流鶴図銚子 | 明治~大正時代 | 20C | 周藤国実コ レクション | 1 | | 暖めた酒を入れ、そそぐ酒器。恐らく婚礼や正月など祝いの席で用いたのだろう。 | | |
| 12 | 富士鶴図蓋物 | 明治時代 | 20C | 山口家資料 | 1 | 「製陶社」印 | 「蓋物」とは蓋付きの器の総称で、本作品は身と蓋と切り離したような合子をかたどる。 | | |
| 13 | 鶴亀図盃台 | 明治時代 | 19C | 周藤国実コ レクション | 1 | | 盃台は、婚礼など祝いの席で用いる、盃を載せる台。 | | |
| 14 | 金魚に草花図盃洗 | 明治時代 | 19C | 周藤国実コ レクション | 1 | | 「盃洗」は、酒宴などで返杯する時に盃を軽くすすぐ器。底部に金魚を描くのは、盃洗を金 魚鉢に見立てているのだろう。遊び心のある夏向きの器である。 | | |
| 15 | 呉須釉流灯明台 | 江戸時代 | 19C | 個人蔵 | 1 | | 「灯明皿」は、油を入れ、浸した灯心に火をつけて用いる照明具。台は小型で高さがないの で、文机などで用いたのだろうか。 | | |
| 16 | 呉須釉菊皿燭台 | 江戸時代 | 19C | 周藤国実コ レクション | 1 | | 燭台は、先端にろうそくを立てて用いる照明具。近代に入り、ランプ、つづいて電灯の普及 により姿を消していった。 | | |
| 17 | 羅漢・唐官図扁壺形 花瓶 | 明治時代 | 19C | 周藤国実コ レクション | 1 | 「出雲若山」印 | 表に羅漢、裏に唐服の人物を描く。近代、海外への輸出向けに分業体制で豪華緻密な作品が 制作された。「扁壺」は、表裏が扁平な円形の壺をいう。 | | |
| 18 | 天女に草花図花瓶 | 明治時代 | 19C | 周藤国実コ レクション | 1 | 「出雲楽山」印 | 近代、海外への輸出向けに分業体制で豪華緻密な作品が制作された。底部の「楽山」と は、松江市街東郊の楽山焼。外見だけで布志名焼と判断出来ない作例。 | | |
| 19 | 鶴に草花図花瓶 | 明治時代 | 19C | 周藤国実コ レクション | 1 | | | | |
| 20 | 緑釉紅茶茶碗 | 明治~大正時代 | 20C | 個人蔵 | 1 | 皿欠。「大日本」「出雲」 「三」印 | 全体を覆う濃厚な緑釉が美しい。このようなモダンで薄手の作品も作られたが、大正、昭和 初期の輸出減等により製造されなくなった。皿を欠くのが惜しい。 | | |
| 21 | 緑釉湯さまし・こぼし | 明治~大正時代 | 20C | 個人蔵 | 1 | 「大」印 | 「湯さまし」は、煎茶をいれるのに適温にする器、「こぼし」は茶の残りを捨てる器。幕末 以降の煎茶の普及に応じて製造された茶器。 | | |
| 22 | 緑釉流湯冷まし | 明治~大正時代 | 20C | 個人蔵 | 1 | 「又」印 | | | |
| 23 | 呉須釉蓋碗 | 大正~戦前 | 20C | 個人蔵 | 5客の内 2客 | | 器全体を覆う青磁色が美しい。かつての日本人の青磁へのあこがれを反映した作品。 | | |
| 24 | 蓋付飴釉茂久良茶碗 | 大正時代 | 20C | 山口家資料 | 6客の内 2客 | 「若山」「大」印 | 名称は箱書による。「もぐら」とは、動物のモグラなのか、「むぐら(葎。草の茂み)」の ことなのか。 | | |
| 25 | 一畑徳利 | 明治時代 | 19C | 個人蔵 | 1 | | 西日本を中心に信仰を集めてきた「眼の薬師」・一畑薬師の茶湯用徳利。かつて出雲を中心 に各地で一畑講が結成され、灯籠(一畑灯籠)を建てて供養されていた。 | | |

布志名焼

前期2.22～3.20 後期3.22～4.17

前期 後期

| | | | | | | | | | |
|----|----------------|---------|-----|------------|---|--------------------------------------|--|--|--|
| 26 | 一畑香炉 | 明治時代 | 19C | 個人蔵 | 1 | | | | |
| 27 | ぼてぼて茶碗 | 明治時代 | 19C | 山口家資料 | 1 | | 「ぼてぼて茶」は、番茶に漬物、冷飯の残り、乾燥させた茶花などを入れ、細身の茶笥で「ボテボテ」と泡立てたもの。かつて空腹しのぎに出雲で愛飲されていた。 | | |
| 28 | 盃 | 明治時代～戦前 | 20C | 個人蔵 | 7 | 裏夷、裏大黒、裏御多福、表御多福裏鬼、八重垣、安来節、安来節男踊、エビス | 近代の観光ブームに乗じて製造販売されていた土産用の盃の数々と徳利。ユーモアがあり、かさばらず荷物にならないことから人気を集めていた。 | | |
| 29 | 大黒に俵形楊枝入 | 明治～大正時代 | 20C | 周藤国実コレクション | 1 | | | | |
| 30 | 大黒図徳利 | 明治～大正時代 | 20C | 個人蔵 | 1 | 「出雲」「本」印 | | | |
| 31 | 恵比寿水滴 | 明治～大正時代 | 20C | 個人蔵 | 1 | | | | |
| 32 | 大黒天香炉 | 大正時代 | 20C | 周藤国実コレクション | 1 | 花押ヘラ書、「大黒」ヘラ書、方印 | 型抜き成形による香炉。香は袋の中で焚き、煙は透かし彫りの小槌から抜ける仕組み。箱書には、大正13年（1924）出雲大社参拝記念に需めた、とある。 | | |
| 33 | 達磨形楊枝入 | 明治時代 | 19C | 周藤国実コレクション | 1 | | | | |
| 34 | 盃 | 明治時代～戦前 | 20C | 個人蔵 | 1 | 表大黒 | | | |
| 35 | 盃 | 明治時代～戦前 | 20C | 個人蔵 | 1 | 葉形 | | | |
| 36 | 筆立 | 明治時代 | 19C | 山口家資料 | 1 | 「出雲若山」「大」印 | | | |
| 37 | はなもち(いがもち)用素焼型 | 明治時代 | 19C | 個人蔵 | 3 | 福助、魚、大砲。ろう見本、グレーテルのかまど | はなもちの素焼型は、「凸型に成形した種型を、丸めた粘土に押しつけて素焼きにしたもの。NHK「グレーテルのかまど」で「はなもち」のレシピが紹介されている。 | | |
| 38 | エッグ・ペーカー | 現代 | 21C | 個人蔵 | 1 | 蓋欠 | 3～4分弱火にかけ、蒸らして作る目玉焼専用鍋。民窯としての伝統を、現代の日常生活の中に活かす取組みから生まれた、愛らしくも実用的な器である。 | | |
| 39 | 陶板 鹿 | 現代 | 21C | 個人蔵 | 1 | | 船木家5代。バーナード・リーチ（Bernard Howell Leach,1887～1979）の工房で修行。父・道忠は柳宗悦、棟方志功らの民芸運動に刺激を受けて布志名の再生に貢献した。 | | |

大甕 江戸時代 19C 古代出雲歴史博物館 1 口径660mm、総高1170mm パネル紹介